

「反貧困全国キャラバン」三重入り

しんぶん

生活保護制度の周知徹底 各自治体に要請



きょうシンポ開く

「人間らしい生活と労働の保障を求めて、つながろう!」を合言葉に全国各地を回っている「反貧困全国キャラバン2013」が9日、三重県に入りました。

桑名駅前で同日午後、岐阜県からのキャラバンカーを引き継いだ三重県実行委員会（南川久美子実行委員長）の一行は早速、桑名市役所を訪ね、生活保護制度の周知徹底や、同制度を誰もが容易に利用できる環境にするよう伊藤徳宇市長に要請。夕方には津市

役所を訪ねて前葉泰幸市長に同趣旨の要請を行いました。

津駅前での街頭宣伝には実行委のメンバーら十数人が参加。南川氏や弁護士の木村夏美氏が「最後のセーフティーネットである生活保護制度が十分機能していない。もっとやさしい社会にしよう」などと市民に呼びかけました。日本共産党の星野公平桑名市議も宣伝に参加しました。

一行は12日まで三重県内を回って、各自治体への要請や街頭宣伝を行い、12日午後2時から津駅前のアストームで生活保護制度をテーマにしたシンポジウムを開きます。

街頭宣伝を前に氣勢をあげる反貧困キャラバン三重県実行委の一行9日、津駅前

桑名市長

伊藤 徳 宇 殿

謹啓 日頃の市政へのことさて、私たちは、昨年、「反貧困全国キャラバン」ことができました。その活動の一環として、